

ウルトラトレイル・マウントフジ 2022 事業報告会議事録

日時；2022年6月22日（水） 15時00分～17時00分

会場；富士吉田市民会館 1,2 会議室

出席者；

No	氏名	所属・部署
1	齋藤 明光様	環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官
2	半場 良一様	環境省 国内希少野生動植物種保存推進員 山梨県 希少野生動植物種保護専門員 富士山自然史研究会会員 日本野鳥の会南富士支部会員
3	水越 文孝様	日本野鳥の会 富士山麓支部
4	秋元 芳武様	ロブロイ ネイチャーナビ
5	加藤 弘一朗様	株式会社時之栖
6	鐘木 毅	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 大会会長 NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部 代表理事
7	福田 六花	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 共同代表
8	千葉 達雄	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 共同代表 株式会社ソトエ代表取締役プロデューサー
9	岡嶋 智己	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 共同代表 一般財団法人アールビーズスポーツ財団
10	市川 洋介	富士市 交流観光課
11	影山 智海	
12	渡邊 健太	裾野市 産業観光課
13	大友 潤一	
14	川口 健太郎	忍野村 教育委員会
15	岩谷 忠彦	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局 一般財団法人アールビーズスポーツ財団
16	佐藤 和	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局
17	鈴木 磨美	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局
リモート出席		
18	平野 淳様	環境省 沼津管理官事務所 国立公園管理官
19	刑部 美鈴様	環境省 沼津管理官事務所 自然保護官補佐
20	遠藤 淳様	静岡県 東部農林事務所森林整備課
21	望月 靖郎様	静岡県 暮らし・環境部環境局自然保護課
22	花城 啓太様	
23	依田 勇二様	山梨県富士・東部林務環境事務所
24	星野 利春様	関東森林管理局 山梨森林管理事務所
25	長田 明彦様	富士五湖消防本部 救急課
26	渡辺 昭様	
27	吉田 裕樹様	公益財団法人 日本野鳥保護連盟
28	吉永 耕一様	富士山エコレンジャー連絡会
29	田近 義博	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 共同代表 リージョンポート合同会社 代表
30	風岡 達也	富士宮市 産業振興部 観光課
31	セルナルド 裕慈	
32	勝又 脩介	御殿場市 スポーツ交流課
33	西山 洋哉	
34	村松 雅恵	身延町 企画政策課
35	若林 由美	
36	梶原 浄	富士河口湖町 生涯学習課
37	北川 浩正	
38	関谷 正太郎	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局
39	神谷 知里	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局

## 議題

- (1) 事業報告
- (2) 環境モニタリング調査報告
- (3) その他（NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部の事業報告）
- (4) 質疑応答

<大会会長 鏑木毅 挨拶>

「本日は足をお運びいただきましてありがとうございます。2ヶ月前ウルトラトレイルマウントフジを無事に終了することができました。ご存知の通り2年間ブランクがあり3年ぶりの開催というかたちで不安要素がある中たくさんの自治体の皆さん、関係者の皆さんほんとに多くの方のご協力をいただきまして無事に開催することができました。まずは心から感謝申し上げます。

大会本部は幸い大きな事故もなく開催することができました。例年に比べコロナ対策として抗原検査を行い、エイドでも様々な今までにない対応策をとりながらの3年ぶりの開催ということで、本当に大変な大会だったと思っております。3日間非常に好天に恵まれましたが、事前に安全対策と環境面から天子山地を今回は回避するというルートをとらせていただきました。まずは無事に終わったということが大きく大切なことだったと思っております。

大会後には石割山周辺で大雪山山守隊の岡崎哲三氏をお呼びしてトレイル整備を本格的に実施させていただきました。エキスポ会場で行なったUTMFサステイナブルサポートガチャでいただいた寄付金と環境省からのグリーンエキスパート事業費の支援をいただき行われました。私も実際に整備に加わり、地域の環境に関係する方々の地域で回していける非常に持続可能な整備方法だと感じました。まだまだ復旧されていない部分もありますが、ウルトラトレイルマウントフジという大会と富士山周辺の環境整備というものを本格的に進められる兆しがようやく見えてきたと感じております。本日は環境に関してもいろいろなご提案ご意見等を賜ればと思っております。よろしく願いいたします。」

## (1)事業報告

(配布資料 開催報告書に沿ってご説明)

<共同代表 千葉>

○前回との変更点：フィニッシュ会場を富士急ハイランドコニファーフォレストへ変更。KAI69kを新設し2種目での開催。コロナ対策としてUTMFはウェーブスタートを導入。

○日程：4月22日から24日までの3日間で開催。

20日16時30分に、降雨予報のため安全面と環境面に配慮して天子が岳登山道の迂回とUTMF165kのスタート時刻の1時間後ろ倒しを決定した。

- 出走者数：UTMF165k 1,808名 KAI69k 489名
- 大会来場者：選手・応援を含め、富士急ハイランド約4,000人（21～24日延べ人数）、富士山こどもの国約2,350名（22日）
- ボランティア・スタッフ：約1,400名（例年よりも100名減）
- 入賞者：海外在住のトップアスリートは参加できないので日本在住者となった
- 大会中救助要請対応件数：40件のうち出動2件
- エキスポ：富士急ハイランドコニファーフォレスト30ブース
- SNS：大会公式YouTubeはStravaとタグを組み、全5回のライブ配信を実施。最大再生回数30万回 同時視聴数は2000人。表彰式など大会会場の大型ビジョンでライブ放送を行った。公式Instagramを開設しフォロワー数は3000件。
- 広告物：大会公式パンフレットはダウンロード式。
- テレビ放映について；NHKBS1「グレートレース」にて7月上旬に放映予定。NHKワールドでの放映も調整中。

## (2)環境モニタリング調査報告

<共同代表 千葉>

- ・21～22日の雨量を考慮して、コースの迂回がありエリア1、2、3はコースから外れたため大会終了後の調査は行っていない。
- ・調査箇所について大会後の大きな問題はなかった。
- ・山梨県明神山（エリア9）の2019年大会後にあった木段が、2022年大会前には無くなっていた。そのため土砂が崩れ、洗掘が深くなっており何らかの整備が必要と考える。
- ・登山道利用者とのトラブルはなかったが、大会開催の認知度が低い。来訪者は県外者が多いので毎年恒例行事として開催を重ねて知られていくしかない。
- ・2019年にトレイルの荒れがあった送電線下の状況などは大会後に確認したが今回影響は見られなかった。
- ・コロナウィルス感染対策としてウェーブスタートを実施したが、渋滞や拡幅の防止にも役立っている。
- ・端足峠下の拡幅箇所はロープを設置するなど拡幅防止に努めた。今後も継続。
- ・大会中に野鳥の調査を実施。再度の調査後、次回大会の説明会で結果報告予定。

<日本野鳥保護連盟 吉田様>

レースの前とレースの後でどのような影響があるかを調査員2人で実施。

4月20日の事前調査、22日にはレース中に大会に参加し調査を行った。レース後として7月に再度調査を行う。調査報告は次回の大会説明会で行う予定。

### (3)その他 (NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部の事業報告)

<事務局 神谷>

環境ガチャの景品として各自治体から特産品をたくさんご提供いただいた。ガチャには622名の参加者があり、約31万円の寄付金が集まった。これをもとに環境省からのグリーンエキスパート事業費、団体負担金とを合わせ、大雪山見守り隊の岡崎氏のご指導のもと近自然工法を用いて石割山登山道4カ所の整備補修作業を行った。

この活動はこのまま継続し、この環境活動に寄与するイベントも継続していく。

### (4)質疑応答

<富士山エコレンジャー 吉永様>

「今回3日前に天気を予測されて迂回の判断を取られたのは大変良かったと思う。高く評価させていただきたい。近自然工法を利用した整備作業にチャレンジされたということも良かった。我々もUTMFが開催された4月と6月に以前コースに使われていた須山口の登山歩道で環境活動をやっていた。一度崩れたところはその後使われなくなっても浸食が進んでしまっている。今回回避が可能であったということはよかった。また迂回先の東海自然歩道はトレランに関係なく荒れやすい場所もあり気になっていた。ご説明では大丈夫であったという事で安堵している。迂回をする場合は、荒れやすい迂回路の方も事後の確認をもう少しわかりやすくしていただきたい。

土壌硬度の調査をされているが、選手が通過したあとに土壌硬度が高くなったとか低くなったということがどれだけ意味のあることなのか、私達がずっと調査に携わってきた中でも議論になっている。一番いいのは今回3日前の天気予報で迂回を実現されたということに、うまく土壌硬度が低いということは柔らかい崩れやすいという判断に使った方がいいのではないか。結構労力がかかる作業というのは知っている。この件に関して私達も環境省に労力が少なくて荒れるのを防げるやり方にモニタリング調査を検討してほしいとお願いをしている。」

<共同代表 千葉>

「土壌硬度に関しては我々も同じ見解。事前事後でどうやっても大会の直前に雨が降ってしまったら柔らかくなってしまう。大会に影響があると分かるのかとはなかなか難しい。モニタリングの手法の中で掲示されているものではあるが、天候に非常に左右されるもので土壌硬度の事前事後の調査が大会の影響が分かるのかというのは限定的であると感じている。」

<ネイチャーナビ 秋元>

「足和田山はガイド会社が車で入って自転車でかなり大きい団体で走っている。その他にも地元の林業関係者や農業関係者が軽トラで中まで入っているという現実がある。2000名を超える人達が走ったからといってそれほど影響が出ているとことはないのではないか。こういう団体にもどういう風に考えているか聞いてもらいたい。福田先生もレースで使っているところだと思うが出会った事はないか。」

<共同代表 福田>

「自転車はここ2年で月に何回か山に自転車で入るのを見かける。そういう業者がいることも確認している。その方達と話し合いをした事はないがずっと気になっていた。その方達とどういうふうにやっていくのかは話をしていこうと思っている。モニタリング調査は車の入れない場所でやっており、自転車も20~30台なのでモニタリングをやる意義はあると考える。」

<環境省富士五湖管理官事務所国立公園管理官 斎藤>

「環境モニタリング調査表の62ページ、国立公園第3種特別地域は、正しくは第2種。訂正をお願いしたい。」

<共同代表 千葉>

「失礼しました。訂正します。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「来年の開催もあるか。」

<共同代表 千葉>

「開催はある。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「来年は野鳥の繁殖期を避けてもらいたい。前から言っているがなかなか実現されない。」

<共同代表 千葉>

「野鳥の調査もしているのでその結果も踏まえながら検討させていただく。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「どのような調査を行ったのか。以前の調査から改善されないまま希少種もさることながら、一般に見られる野鳥にも影響が大きく出ているので改善していただきたい。反対しているわけではない。その期間だけやめてほしい。」

<共同代表 千葉>

「レース中に実際どのような状況になっているか、調査員と一緒に走ってもらいながら調査してもらっている。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「それでわかるのですか。」

<共同代表 千葉>

「まだ報告が上がっていないので、その報告も含めてお返事させていただく。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「それは影響があれば開催時期を変更してもらえるのか。」

<共同代表 千葉>

「影響があるならば検討する。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「検討だけでいつも終わっている。変更する可能性はあるのか。」

<共同代表 千葉>

「検討するという事は変更するという可能性もある。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「環境を謳っているだけにその辺のことを考慮して変更してもらいたい。繁殖期にこんな大勢で走ると言う事は異様なことだ。」

<ネイチャーナビ 秋元様>

「前回の報告書で、世界の同じようなレースの会議にご出席の際に自然の中を大人数で走る事について他の国の方々と意見交換をしていただきたいとあったが、その後進展はあったか。」

<共同代表 千葉>

「コロナ禍で3年会議を開いていない。やっと再開をしてきた状況で、実際大会ができて会議を開いてお話出来るようになればと思っているが、我々が国際レースに復帰できていない状況。」

<大会会長 鏑木>

「各国のレースオーガナイザーと意見交換することもあるが、自然に対する文化の違いもあり、欧米のレースはどちらかというと環境面よりも安全面のほうにかなり寄った議論が多いと感じる。全世界のレースを把握しているわけではなく断言できないが、ウルトラトレイルマウントフジあるいは日本のレースは環境面に非常に高いレベルで、これほど配慮している大会は他にない。コロナも収束しつつあるので情報収集を継続していきたい。」

<共同代表 千葉>

「昨今の1番大きなトピックが中国のレースで21名の方が亡くなったこと。UTMFに参

加された中国人有力選手も含まれている。これはトレイルランニングだけではなく、世界的なニュースであり、スポーツ大会で21人死亡するという現状が起きた。安全管理は我々もかなりしっかりやっているつもりではあるが、中国は地域振興で人をどんどん集め、砂漠地帯で行い、天候が急変したことに対応できず経験値も低いと言うことで大きな問題となった。」

<共同代表 福田 挨拶>

「今日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。  
何とか3年ぶりに開催することができまして、様々な方の声援と本当に感謝しております。UTMFに関しまして時期をずらしてほしいとかやめてほしいという意見があるのも事実です。そういった意見にも一つ一つ耳を傾けていきます。出来る限り対応していきたいと思っております。これは本心です。その中で変えられないものもあるということも事実です。そういった中でいろんなことを挑戦しつつやっていきたい。引き続き忌憚のない意見をいただき、我々と共に歩んでいただけたらと思います。今日はありがとうございました。」

以上

議事録作成

ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会事務局

鈴木 磨美